SU-UTAI & SHIMAI

2024 SPRING, KYOTO KANZE NOHPLAY THEATRE

春の素謡と仕舞の会

言葉の響きの美しさ――。

素謡　能の台本を謡い語る

仕舞　能の一部を紋付袴姿で舞う

演目	出演
忠度（ただのり） TADANORI	河村和貴
俊寛（しゅんかん） SYUNKAN	橋本雅夫
隅田川（すみだがわ） SUMIDAGAWA	梅若桜雪
山姥（やまんば） YAMAMBA	浦田保親

日時　令和6年 3月10日（日）
午前11時 開演（10時30分開場）

会場　京都観世会館
京都市左京区岡崎円勝寺町44

入場料

一般前売	4,500円	一般当日	5,000円
New 春・夏通し券	8,000円（前売のみ）	学生	2,500円

［当公演と7/14「夏の素謡と仕舞の会」チケットの2枚セット］

※通信講座受講生、放送大学、老人大学は一般料金

全席自由席

■チケットのお申込みは、お電話またはチケット販売サイト、出演能楽師へお願いいたします。

ご予約・お問合せ　京都観世会館
京都市左京区岡崎円勝寺町44
TEL.075-771-6114
http://www.kyoto-kanze.jp

チケット販売サイト

春の素謡と仕舞の会

令和六年三月十日(日)
午前十一時開演(十時三十分開場)

忠度

河村　和貴　　大江　信行

地謡
浅井　風矢　　片山　伸吾
河村　和晃　　河村　和貴
大江　泰正　　大江又三郎
松野　浩行　　大江　信行

仕舞
氷室　宮本　茂樹
雲林院 クセ　古橋　正邦
網之段　塚本　和雄
船橋　浦部　幸裕

地謡
浅井　風矢
青木　道喜
武田　邦弘
井上裕之真

俊寛

ツレ　樹下　千慧
ツレ　田茂井廣道
橋本　雅夫　　河村　晴久

地謡
谷　弘之助　　橋本　光史
樹下　千慧　　林　宗一郎
田茂井廣道　　橋本　雅夫
吉田　篤史　　河村　晴久

休憩　二十分

仕舞
箙　河村浩太郎
采女 キリ　吉田　潔司
雲雀山　松井　美樹
善知鳥　青木　道喜

地謡
谷　弘之助
古橋　正邦
橋本　礒道
越賀　隆之

(一時過)

隅田川

子方　橋本　和樹
梅若　桜雪　　片山九郎右衛門
ワキツレ　梅田　嘉宏

地謡
宮本　茂樹　　分林　道治
梅田　嘉宏　　梅若　桜雪
深野　貴彦　　片山九郎右衛門
味方　團　　味方　玄

休憩　二十分

仕舞
老松　河村　博重
梅　井上　裕久
笹之段 クセ　河村　晴道
鵜　大江　泰正

地謡
樹下　千慧
橋本擴三郎
杉浦　豊彦
浦部　幸裕

(三時頃)

山姥

ツレ　大江　広祐
浦田　保親　　橋本　忠樹

地謡
寺澤　拓海　　吉浪　壽晃
大江　広祐　　浦田　保親
河村浩太郎　　浦田　保浩
河村　和貴　　橋本　忠樹

附祝言

(終了予定　四時頃)

主催　公益社団法人　京都観世会

※時間はおよその目安です

素謡(すうたい)とは

能の台本(謡本)を、舞台上で謡(うた)う演奏形式です。謡うこと・語ることで情景や心情を表現します。能には『源氏物語』や『平家物語』などの古典を題材にした名作が多く伝わっており、詞(ことば)(詞章(ししょう))の美しさは高い評価を得ています。素謡は、その「謡うこと・語ること」のみのシンプルな表現の面白さから、大正の頃より大変な流行となりました。

また、京都には歴史的に「京観世(きょうかんぜ)」とよばれる「素謡」の文化があります。江戸初期寛文の時代、服部宗巴(そうは)(九世観世大夫黒雪の弟、服部栖元の息、のちに福王盛親)が、西陣にあったといわれる観世屋敷で謡の教授をしたのが始まりです。以後、京都では能だけでなく、人々が謡だけをたしなむ「素謡」というジャンルが好まれ、連綿と受け継がれてきました。戦前は、京の辻々で謡の声がよく聞かれたようです。情緒豊かな「素謡」をライブでじっくりと〝聴いて〟みてください。

仕舞(しまい)とは

能の一部(見せどころ)を、紋付袴姿で、謡にあわせて舞う演奏形式です。ほとんどの曲は扇を持ちますが、演目によっては長刀や杖などを持つものもあります。舞い手の骨格が見えやすいので、〝能のデッサン〟と評され、演者の個性と技を楽しめます。数分の演技で能の醍醐味が味わえるのが仕舞です。

忠度(ただのり)　あらすじ

春の須磨浦が舞台。作者の世阿弥が「上花」と高く評価した作品です。平忠度の和歌の師匠・藤原俊成に仕えていた者が出家し、西国行脚の途中の須磨浦にやって来ます。そこで、ある桜の木に花を手向ける尉に出会います。尉に宿を頼むと、この花の下にまさる宿はあるまいと言い、「行き暮れてこの下蔭を宿とせば花や今宵の主ならまし」と詠んだ薩摩守・忠度がここに眠っているのだと語り、僧に回向を頼みます。やがて尉は忠度の霊であることを暗示して姿を消します。回向する僧のもとへ忠度が在りし日の姿で現れ、西国への都落ちの途中、俊成のもとへ立ち帰って後日の勅撰集への和歌を託したこと、一ノ谷の合戦で討たれたこと等を語り、桜の花の蔭に消えてゆきます。

俊寛(しゅんかん)　あらすじ

薩摩・鬼界島には、平家討伐を企て遠流となった俊寛、成経、康頼が居ます。中宮(平清盛の娘)御安産の御祈祷のため、赦免使が向かいます。成経、康頼二人は日々、島に勧請した三熊野に参詣し帰洛を祈りますが、俊寛は神仏をも頼まず、心を閉ざすばかりでした。そこへ赦免使が着きますが、赦免状に俊寛の名がありません。「何とて俊寛をば読み落し給ふぞ」「さては筆者の誤りか」「もしも礼紙にやあるらん」「夢ならば覚めよ」と、現実を受け入れることができない俊寛。出船の時が来ると、「せめては向いの地にまでなりとも」と船の纜(ともづな)にすがりつき嘆願しますが、それを振り切り出発する船。渚にひれ伏す俊寛。終に船影も人影も去り、見えなくなってしまうのでした。

隅田川(すみだがわ)　あらすじ

春の墨田川を舞台に、行方知れずになった我が子を探し求める母の悲しみに満ちた作品です。世阿弥の子・観世十郎元雅作。墨田川のほとりに、我が子の行方を尋ね歩いてはるばる都から女がやって来ます。「名にし負はばいざ言問はん都鳥　我が思ふ人はありやなしや」という『伊勢物語』の歌をひいて、都鳥にその行方を問います。渡守は、昨年の今日、人買いに連れられた子がこの河岸で息絶え、今日はその弔い大念仏があると語ります。女はその子が、我が子梅若丸であると知り泣き伏します。渡守が墓所に案内すると、母の弔いにひかれるように子の声が聞こえ、幽霊となって現れます。言葉を交わしますが、その姿は夜明けとともに幻のように消え、あとには草が生い茂る塚が残るのみでした。

山姥(やまんば)　あらすじ

越後国が舞台。世阿弥作ともいわれます。都に、山姥の曲舞を得意とする百萬山姥と呼ばれる遊女がいました。従者を連れて信濃国・善光寺に参る途中、上路越にさしかかると、突然日が暮れたように暗くなり一行は困惑します。そこに不思議な女が現れ、宿を貸そうと庵に案内します。庵に着いた一行に、女は、自分こそが山姥であると明かし、月の出るころに謡えば真の姿を現そうと言って姿を消します。すると、辺りは瞬く間に明るくなります。夜が更け、一行の前に現れた異様な姿の山姥は、約束通り舞を舞い、山姥の本性を語ります。そして深山の光景、山姥の境涯を語り、山また山を廻りながら姿を消すのでした。

※上演中の写真撮影・録音・録画はお断りします。
※携帯電話の着信音・時計のアラーム音が鳴らないよう、あらかじめ電源をお切りください。
※都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。
※お車の方は、会館東隣りの有料駐車場、または岡崎公園市営駐車場等をご利用ください。
※公演中止の場合を除き、入場券払戻はできません。

予告　夏の素謡と仕舞の会
令和6年 7月14日(日)　午前11時開演

素謡	「盛久」	越賀　隆之	仕舞十二番
	「井筒」	浦田　保浩	
	「鸚鵡小町」	観世　清和	
	「海士」	片山　伸吾	

【交通アクセス】
JR京都駅から
●地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」にて地下鉄東西線に乗り換え、「東山駅」下車、1 番出口より徒歩約5分
●京都駅前バスのりばA1より市バス5系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、D2より86・206系統「東山仁王門」下車(乗車時間約30分)
四条河原町から
●バスのりばEより市バス31・46・201・203系統「東山仁王門」下車(乗車時間約15分)
京阪三条駅から
●市バス5系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
●地下鉄東西線に乗り換え、「東山駅」下車